《研究ノート》

奄美大島と八重山諸島における集落等の現状と課題

－集落・町内会・自治会代表者へのアンケート調査から－

小窪　輝吉・岩崎　房子・大山　朝子・山下　利恵子
田中　安平・田畑　洋一・髙山　忠雄

／研究ノート

奄美大島と八重山諸島における集落等の現状と課題

－集落・町内会・自治会代表者へのアンケート調査から－[1)]

小窪 輝吉・岩崎 房子・大山 朝子・山下 利恵子
田中 安平・田畑 洋一・髙山 忠雄

要旨：本研究の目的は、琉球弧の島嶼集落の現状と課題を明らかにすることであった。奄美大島と八重山諸島の集落・町内会・自治会の代表者を調査対象にした郵送調査を実施し、177人から回答を得た（回収率61.9％）。調査内容は、集落の団体、集落の行事、集落維持の見通し、郷友会、支え合い活動、災害対策の現状、集落の課題、回答者の個人属性等であった。結果、台風被害、伝統的行事の種類、郷友会の現状、支え合い活動については奄美大島と八重山諸島で共通性が見られた。一方、八重山諸島のように観光産業が盛んでない奄美大島では人口減少が大きいため課題を抱えた集落が多かった。また、伝統的行事の存続や集落の維持の見通しについても奄美大島の方がより深刻であった。

キーワード：琉球弧、集落、郷友会、支え合い活動、防災体制

問題

本研究の目的は、琉球弧の北部と南部にある島嶼の集落・町内会・自治会の現状と課題を、アンケート調査を通して把握することである。

調査対象地は鹿児島県奄美大島の奄美市、龍郷町、大和村、宇検村、瀬戸内町の５自治体と沖縄県八重山諸島の石垣市と竹富町であった。奄美市は2006年に名瀬市、住用村、笠利町が合併して生まれた市である。鹿児島県ホームページ（2015）の推計人口調査結果（平成26年10月１日現在）によると、奄美市の人口は44,125人、高齢化率は27.8％である。なお調査結果の集計において奄美市を合併前の市町村に分けた。奄美市のホームページ（2015）の住民記録年齢別人口集計表（平成27年11月２日現在）によると、旧名瀬市域は人口37,497人で高齢化率は26.1％、旧住用村域は人口1,362人で高齢化率は39.1％、旧笠利町域は人口5865人で高齢化率37.1％である。

また、鹿児島県ホームページ（2015）によると、龍郷町は人口5,883人で高齢化率30.6％、大和村は人口1,631人で高齢化率37.8％、宇検村は人口1,792人で高齢化率37.3％、瀬戸内町は人口9,162人で高齢化率34.6％である。

一方、沖縄県ホームページ（2015）の住民基本台帳年齢別人口（平成27年１月１日現在）によると、石垣市の人口は48,927人で高齢化率は18.3％、竹富町の人口は4,205人で高齢化率は20.6％である。離島という共通点はあるが、高齢化率には大きな開きがあり、奄美大島の方が八重山諸島よりもはるかに高齢化が進んでいる。

ところで、団塊世代が高齢期に入る中、「2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築（厚生労働省, 2015)」が進められている。その中でそれぞれの地域特性を前提にした自助・互助の新たな仕組みつくりと地域つくりが求められている。琉球弧においては「結い」の相互扶助の精神が残り、それが転出先においても具現化される「郷友会」が作られ、また集落を愛着もって「シマ」と呼ぶ習慣が残っている。これらの地域文化は地域包括ケアシステムの構築で求められる地域づくりを促進する土壌となるものである。琉球弧の北部に位置する奄美大島において地域支え合いの活動を契機とした地域づくりが始動している（例えば、小窪・岩崎, 2013；大山・小窪・岩崎ら, 2015)。このような地域づくりを背景で支える地域文化の特性と同時に集落の基盤がどういう状況にあるかを把握する必要があろう。

すでに小窪・岩崎・田中ら（2014）が奄美群島の瀬戸内町と八重山諸島の竹富町の集落区長を対象に島嶼集落の現状を調査している。その結果、「(両対象地）ともに亜熱帯の島嶼という点で自然環境や地理的環境がもたらす自然環境の良さ、自然災害、生活の不便性などに共通点がみられた。また、中央から離れた辺境の島嶼ということで、保健福祉サービス体制や緊急事態への体制作りの必要性でも共通点がみられた。郷友会が残っているのも中央の経済圏から離れた辺境性によるものと思われる。一方、祭りや伝統芸能などの顕現的な文化面では違いが目立った。特に自然と文化を活かした観光産業で潤う竹富町は若者が多く残り、祭りや集落の維持、集落の団体構成、区長の属性などで瀬戸内町と異なる点が見られた。」と述べている（小窪・岩崎・田中ら、2014：102)。両地域は島嶼の持つ利点とハンディキャップおよび琉球弧でくくられる文化的背景を共有しているが、高齢化率に見られるように集落の足腰に相当する基盤には異なる所がある。

本研究は、琉球弧の島嶼の地域文化、地域基盤、地域課題を探るために、小窪・岩崎・田中ら（2014）が行った対象地を拡大して奄美大島と八重山諸島の集落・町内会・自治会の現状と課題を調べることを目的とする。なお、以下の記述において、「集落・町内会・自治会」を「集落」として記述する。

方法

調査対象者は鹿児島県奄美大島の奄美市（旧名瀬市、旧住用村、旧笠利町)、龍郷町、大和村、宇検村、瀬戸内町の５自治体と沖縄県八重山諸島の石垣市と竹富町の集落・町内会・自治会の代表者であった。奄美大島の対象者は218人、八重山諸島の対象者は68人の計286人であった。回答を得たのは177人であった(回収率61.9%)。調査時期は2015年２月中旬～３月下旬であった。調査方法は無記名の郵送調査であった。

調査内容は、集落の団体、行事の種類と伝統的祭りや芸能の存続の見通し、集落の維持の見通し、郷友会の有無と所在、集落の支え合いと見守り体制、集落の災害経験と防災体制、集落の課題、回答者の属性であった。

なお本調査は、所属大学の教育研究倫理審査委員会の承認を得て実施された。

結果

集計に際し、鹿児島県奄美大島を北部から「奄美市笠利町、龍郷町」「奄美市名瀬」「奄美市住用町、大和村、宇検村」「瀬戸内町」の４つに分けそれぞれ「笠利・龍郷」「名瀬」「住用・大和・宇検」「瀬戸内」とし、沖縄県石垣市と竹富町を合わせて「石垣・竹富」とした。回答件数は、「笠利・龍郷」が38件、「名瀬」が34件、「住用・大和・宇検」が28件、「瀬戸内」が48件、「石垣・竹富」29件であった。

１．集落の諸団体と店の有無

（１）集落の諸団体の有無

集落内の団体について、老人クラブ、青年団、婦人会、子供会、自主防災組織の有無を答えてもらった。

① 老人クラブ

表１に示すように、老人クラブが『ある』と答えたのは全体では75%であった（表１)。「笠利・龍郷」は

100%近くで老人クラブが『ある』と答えていた。一方、「瀬戸内」は『ある』と答えたのが50%強と少なかった。地域によっては高齢者が多くなっているはずなのに老人クラブが減少する傾向がみられる。

なお、以下の表の（ ）内の数値と合計の列の数値は集落の数をさす。

表1 老人クラブの有無

地区	あり	なし	合計
笠利・龍郷	97.4%(37)	2.6%(1)	38
名瀬	77.4%(24)	22.6%(7)	31
住用・大和・宇検	85.7%(24)	14.3%(4)	28
瀬戸内	53.3%(24)	46.7%(21)	45
石垣・竹富	65.4%(17)	34.6%(9)	26
合計	75.0%(126)	25.0%(42)	168

② 青年団

表2に示すように、青年団が『ある』と答えたのは全体では約4割と少なかった。「石垣・竹富」は青年団が『ある』と答えたのが7割を超えているが、奄美大島の各地区においては3～4割と少なかった。「石垣・竹富」の場合、若い世代が多く高齢化率が低いことを反映していると思われる。ところで、「名瀬」で青年団が少ないのは都市部においては青年団の組織化がなされていないためであろう。

表2 青年団の有無

地区	あり	なし	合計
笠利・龍郷	42.9%(12)	57.1%(16)	28
名瀬	22.2%(6)	77.8%(21)	27
住用・大和・宇検	36.4%(8)	63.6%(14)	22
瀬戸内	34.1%(14)	65.9%(27)	41
石垣・竹富	72.0%(18)	28.0%(7)	25
合計	40.6%(58)	59.4%(85)	143

③ 婦人会

表3に示すように、婦人会が『ある』と答えたのは全体では76.9%であった。「笠利・龍郷」では回答したすべての集落に婦人会が『ある』と答えていた。その次に多いのは「石垣・竹富」の84.6%であった。婦人会が『ある』と答えたのが少ない地区は「名瀬」と「瀬戸内」であった。

表3 婦人会の有無

地区	あり	なし	合計
笠利・龍郷	100.0%(38)	0.0%(0)	38
名瀬	65.6%(21)	34.4%(11)	32
住用・大和・宇検	74.1%(20)	25.9%(7)	27
瀬戸内	63.0%(29)	37.0%(17)	46
石垣・竹富	84.6%(22)	15.4%(4)	26
合計	76.9%(130)	23.1%(39)	169

④ 子ども会

表4に示すように、子ども会が『ある』と答えたのは全体では約7割であった。「瀬戸内」では子ども会が『ある』と答えたのが38.5%と少なかった。これは「瀬戸内」では子どものいない集落が多くなっていることを反映していると思われる。

表4　子ども会の有無

地区	あり	なし	合計
笠利・龍郷	88.9%(32)	11.1%(4)	36
名瀬	80.6%(25)	19.4%(6)	31
住用・大和・宇検	66.7%(18)	33.3%(9)	27
瀬戸内	38.5%(15)	61.5%(24)	39
石垣・竹富	77.8%(21)	22.2%(6)	27
合計	69.4%(111)	30.6%(49)	160

⑤　自主防災組織

表５に示すように、自主防災組織が『ある』と答えたのは全体では約８割と高かった。「住用・大和・宇検」では92.6%と高く、最も低い「名瀬」では73.5%であった。台風常襲地なので集落としての災害への備えは整っているのだろう。

表5　自主防災組織の有無

地区	あり	なし	合計
笠利・龍郷	83.3%(30)	16.7%(6)	36
名瀬	73.5%(25)	26.5%(9)	34
住用・大和・宇検	92.6%(25)	7.4%(2)	27
瀬戸内	80.9%(38)	19.1%(9)	47
石垣・竹富	80.8%(21)	19.2%(5)	26
合計	81.8%(139)	18.2%(31)	170

（２）集落内の店の数

集落内に店がいくつあるか答えてもらった。表６に示すように、集落内に店がないのは全体では33.7%もあった。３分の１の集落に店がないことになる。「住用・大和・宇検」では半数（53.6%）の集落に店がなかった。一方、「石垣・竹富」では半数に近い46.4%の集落に３軒以上の店があった。近隣集落に残った商店の配達や移動販売などで基本的な食料品は入手できるかもしれないが、衣料や電化製品などの日用品の購入は困難になっていると思われる。若い世代にとっても不便であるが、買い物のために遠出が難しくなった高齢者にとってはなおさらの状況であろう。

表6　集落内の店の数

地区	ない	１軒ある	２軒ある	３軒以上ある	合計
笠利・龍郷	26.3%(10)	28.9%(11)	23.7%(9)	21.1%(8)	38
名瀬	30.3%(10)	36.4%(12)	9.1%(3)	24.2%(8)	33
住用・大和・宇検	53.6%(15)	32.1%(9)	7.1%(2)	7.1%(2)	28
瀬戸内	37.8%(17)	31.1%(14)	20.0%(9)	11.1%(5)	45
石垣・竹富	21.4%(6)	10.7%(3)	21.4%(6)	46.4%(13)	28
合計	33.7%(58)	28.5%(49)	16.9%(29)	20.9%(36)	172

２．集落行事と伝統的祭りや芸能の存続の見通し

（１）現在行われている集落行事

現在行われている集落行事の種類について８種類の行事から複数回答で答えてもらった。表７に示すように、全体で最も多いのが『敬老会（87.2%）』、２番目が『豊年祭』と『新年会』の61.6%、その次が『浜下り（34.3%）』、５番目が『夏祭り（25.0%）』であった。

地区でみると「住用・大和・宇検」「瀬戸内」「石垣・竹富」はほぼ同じであった。しかし、「笠利・龍郷」では『豊年祭』の割合が44.7%と低くて『浜下り』が84.2%と高かった。また、「名瀬」では『豊年祭』の割合が25.0%と低くて、『夏祭り』が50.0%と高かった。

表7 集落行事の種類（複数回答）

行事	笠利・龍郷	名瀬	住用・大和・宇検	瀬戸内	石垣・竹富	合計
敬老会	①100.0%(38)	①78.1%(25)	①92.9%(26)	①80.4%(37)	①85.7%(24)	①87.2%(150)
豊年祭	44.7%(17)	25.0%(8)	①92.9%(26)	①80.4%(37)	③64.3%(18)	②61.6%(106)
新年会	③65.8%(25)	③46.9%(15)	③64.3%(18)	③63.0%(29)	②67.9%(19)	②61.6%(106)
浜下り	②84.2%(32)	9.4%(3)	21.4%(6)	34.8%(16)	7.1%(2)	④34.3%(59)
夏祭り	23.7%(9)	②50.0%(16)	14.3%(4)	19.6%(9)	17.9%(5)	⑤25.0%(43)
節際	7.9%(3)	12.5%(4)	7.1%(2)	8.7%(4)	10.7%(3)	9.3%(16)
種取祭	15.8%(6)	0.0%(0)	3.6%(1)	0.0%(0)	17.9%(5)	7.0%(12)
入植祭	0.0%(0)	0.0%(0)	3.6%(1)	0.0%(0)	17.9%(5)	3.5%(6)
回答集落数	38	32	28	46	28	172

（2）伝統的祭りや芸能の有無と存続の見通し

① 集落の伝統的祭りや芸能の有無

集落に昔から継承されている伝統的祭りや芸能があるか答えてもらった。表8に示すように、全体では伝統的祭りや芸能が『ある』と答えたのは約7割であった。地区別では「笠利・龍郷」が89.2%、「住用・大和・宇検」が85.7%と高く、「名瀬」が38.2%と低かった。

表8 集落の伝統的祭りや芸能の有無

地区	あり	なし	合計
笠利・龍郷	89.2%(33)	10.8%(4)	37
名瀬	38.2%(13)	61.8%(21)	34
住用・大和・宇検	85.7%(24)	14.3%(4)	28
瀬戸内	64.6%(31)	35.4%(17)	48
石垣・竹富	65.5%(19)	34.5%(10)	29
合計	68.2%(120)	31.8%(56)	176

（3）今後の伝統的祭りや芸能の存続の見通し

集落の伝統的祭りや芸能の存続の見通しについて答えてもらった。

表9に示すように、回答のあった120集落のうち、全体では『将来も存続していける』と答えたのが69.4%（111集落）で最も多く、次いで『しばらくしたら存続できなくなる』と答えたのが30.6%（49集落）であった。地区でみると、「瀬戸内」では『しばらくしたら存続できなくなる』と答えたのが多かったが、他の地区では『将来も存続していける』と答えたのが多かった。また、『今、存続の瀬戸際にある』と答えたは「住用・大和・宇検」の25.0%を筆頭に奄美大島にみられたが、「石垣・竹富」ではなかった。

表9 伝統的祭りや芸能の存続の見通し

地区	将来も存続していける	しばらくしたら存続できなくなる	今、存続の瀬戸際にある	その他	合計
笠利・龍郷	88.9%(32)	11.1%(4)	18.2%(6)	0.0%(0)	33
名瀬	80.6%(25)	19.4%(6)	7.7%(1)	0.0%(0)	13
住用・大和・宇検	66.7%(18)	33.3%(9)	25.0%(6)	4.2%(1)	24
瀬戸内	38.5%(15)	61.5%(24)	12.9%(4)	0.0%(0)	31
石垣・竹富	77.8%(21)	22.2%(6)	0.0%(0)	0.0%(0)	19
合計	69.4%(111)	30.6%(49)	14.2%(17)	0.8%(1)	120

3．集落の維持の見通し

今後の集落の維持の見通しについて答えてもらった。

表10に示すように、173集落のうち、全体では74.0%（128集落）が『このままで集落を維持できる』と答え

ていた。一方、『維持が難しく、消滅するだろう』と答えたのが9.8%（17集落）あり、『近隣集落との統合になる』というのは8.7%（15集落）あった。

地区別では、『このままで集落を維持できる』と答えたのは「石垣・竹富（89.3%）」で最も多く、一方「瀬戸内（66.0%）」と「住用・大和・宇検（66.7%）」ではやや少なかった。また、『維持が難しく消滅する』と答えたのは「瀬戸内（17.0%）」と「名瀬（12.1%）」で多かった。

表10　今後の集落の維持の見通し

地区	このまま集落を維持できる	近隣集落との統合になる	維持が難しく消滅する	その他	合計
笠利・龍郷	78.9%(30)	10.5%(4)	7.9%(3)	2.6%(1)	38
名瀬	72.7%(24)	6.1%(2)	12.1%(4)	9.1%(3)	33
住用・大和・宇検	66.7%(18)	11.1%(3)	7.4%(2)	14.8%(4)	27
瀬戸内	66.0%(31)	10.6%(5)	17.0%(8)	6.4%(3)	47
石垣・竹富	89.3%(25)	3.6%(1)	0.0%(0)	7.1%(2)	28
合計	74.0%(128)	8.7%(15)	9.8%(17)	7.5%(13)	173

4．郷友会の有無と所在

郷友会は集落（シマ）から都市部に出た者が集まって「相互扶助や情報交換の場として結成された（須山、2003）」組織である。最近は高齢化と世代交代とともに数が減少してきているところもあるが、残っている所では出身地である集落の維持や祭り等の存続に大きな役割を果たしている。なお、奄美では郷友会を「ごうゆうかい」と呼ぶが、沖縄では「きょうゆうかい」と呼ぶことが多い。郷友会の有無について調べるために、『集落と交流している郷友会はありますか』と質問した。表11に示すように、全体では、『ある』と答えたのが40.4%（69集落）、『ない』と答えたのが59.6%（102集落）であった。地区別では「笠利・龍郷」が68.4%と高く、その他の地区は20%～30%と低かった。かつて、奄美、沖縄のほとんどの集落にあったといわれる郷友会は時代の変化のなかで半数を切るまでに減少してきている。一方、集落単位の郷友会のほかに自治体や島（島々）を単位とする郷友会は健在である。

表11　郷友会の有無

地区	あり	なし	合計
笠利・龍郷	68.4%(26)	31.6%(12)	38
名瀬	20.6%(7)	79.4%(27)	34
住用・大和・宇検	27.0%(10)	63.0%(17)	27
瀬戸内	36.4%(16)	63.6%(28)	44
石垣・竹富	35.7%(10)	64.3%(18)	28
合計	40.4%(69)	59.6%(102)	171

集落と交流のある郷友会の所在地について複数回答で答えてもらった。「笠利・龍郷」では奄美市にあるのが25集落、関西地区にあるのが１集落、関東地区にあるのが１集落であった。「名瀬」では名瀬にあるのが５集落、鹿児島市にあるのが１集落であった。「住用・大和・宇検」では奄美市にあるのが９集落、関東地区にあるのが２集落、鹿児島にあるのが１集落であった。「瀬戸内」では古仁屋にあるのが６集落、関西地区にあるのが６集落、関東地区にあるのが２集落、奄美市にあるのが１集落であった。「石垣・竹富」では石垣市にあるのが８集落、沖縄本島にあるのが２集落、関東地区にあるのが２集落であった。

「笠利・龍郷」「住用・大和・宇検」では奄美大島の中心都市である奄美市の名瀬に多くの郷友会があった。瀬戸内町では役場の所在地（古仁屋）に多くの郷友会があり、次いで関西地区に郷友会が多かった。「石垣・竹富」では八重山諸島の主島にある石垣島の石垣市に多くの郷友会があった。

5．集落の支え合いと見守り体制

（1）支え合い活動団体の有無

集落に地域支え合いの活動団体があるか答えてもらった。表12に示すように、全体では集落に支え合いの団体が『ある』答えたのは７割近くであった。地区別では、「住用・大和・宇検」が81.5%で最も多く、「瀬戸内」が59.6%で低かった。

表12 支え合い活動団体の有無

地区	あり	なし	合計
笠利・龍郷	64.9%(24)	35.1%(13)	37
名瀬	71.9%(23)	26.1%(9)	32
住用・大和・宇検	81.5%(22)	18.5%(5)	27
瀬戸内	59.6%(28)	40.4%(19)	47
石垣・竹富	71.4%(20)	28.6%(8)	28
合計	68.4%(117)	31.6%(54)	171

（2）支え合い活動の内容

集落に地域支え合い活動団体が『ある』と答えた117集落にどのような活動をしているか複数回答で答えてもらった。

表13に示すように、全体では、最も多い活動は『清掃活動』の69.2%、２番目に多いのが『グラウンドゴルフ』の65.8%、３番目が『見守り活動』の42.7%、４番目が『お茶飲み会』と『ゲートボール』の23.1%であった。

地区別では、『清掃活動』が多いのは「瀬戸内（82.1%）」、「名瀬（78.3%）」であり、『グラウンドゴルフ』が多いのは「名瀬（87.0%）」「笠利・龍郷（79.2%）」、『見守り活動』が多いのは「住用・大和・宇検（54.5%）」、「名瀬（52.2%）」であった。

また、『お茶飲み会』が多いのは「住用・大和・宇検（36.4%）」であり、『ゲートボール』が多いのは「瀬戸内（42.9%）」、「石垣・竹富（35.0%）」であった。そして『ウォーキング』が多いのは「名瀬（43.5%）」、『カラオケ』が多いのは「瀬戸内（35.7%）」であった。

表13 集落の支え合い活動の内容（複数回答）

活動内容	笠利・龍郷	名瀬	住用・大和・宇検	瀬戸内	石垣・竹富	合計
清掃活動	②66.7%(16)	②78.3%(18)	①59.1%(13)	①82.1%(23)	①55.0%(11)	①69.2%(81)
グラウンドゴルフ	①79.2%(19)	①87.0%(20)	③45.5%(10)	②60.7%(17)	①55.0%(11)	②65.8%(77)
見守り活動	③45.8%(16)	③52.2%(12)	②54.5%(12)	④35.7%(10)	④25.0%(5)	③42.7%(50)
お茶飲み会	16.7%(4)	30.4%(7)	④36.4%(8)	14.3%(4)	20.0%(4)	④23.1%(27)
ゲートボール	④25.0%(6)	0.0%(0)	9.1%(2)	③42.9%(12)	③35.0%(7)	④23.1%(27)
ウォーキングなど	20.8%(5)	④43.5%(10)	18.2%(4)	17.9%(5)	5.0%(1)	21.4%(25)
カラオケなど	8.3%(2)	30.4%(7)	13.6%(3)	④35.7%(10)	15.0%(3)	21.4%(25)
食事会	12.5%(3)	4.3%(1)	27.3%(6)	17.9%(5)	15.0%(3)	15.4%(18)
室内トレーニング	16.7%(4)	17.4%(4)	9.1%(2)	14.3%(4)	20.0%(4)	15.4%(18)
異世代交流	12.5%(3)	17.4%(4)	9.1%(2)	7.1%(2)	20.0%(4)	12.8%(15)
野菜の生産	8.3%(2)	4.3%(1)	9.1%(2)	7.1%(2)	0.0%(0)	6.0%(7)
料理教室	0.0%(0)	4.3%(1)	9.1%(2)	0.0%(0)	5.0%(1)	3.4%(4)
工作や手芸	0.0%(0)	4.3%(1)	4.5%(1)	3.6%(1)	0.0%(0)	2.6%(3)
ダンス	0.0%(0)	4.3%(1)	0.0%(0)	7.1%(2)	0.0%(0)	2.6%(3)
惣菜作り	0.0%(0)	0.0%(0)	9.1%(2)	0.0%(0)	0.0%(0)	1.7%(2)
その他	25.0%(6)	17.4%(4)	4.5%(1)	7.1%(2)	10.0%(2)	12.8%(15)
回答集落数	24	23	22	28	20	117

（3）見守り体制の現状

集落の見守り体制の現状について答えてもらった。172集落から回答を得た。『見守り体制がある』と答えたのは55.2%（95集落）、『見守り体制がない』と答えたのは40.7%（70集落）であり、見守り体制があるのが半数を超えていた。

表14に示すように、『見守り体制があってうまく機能している』のは39.5%、『見守り体制はあるがうまく機能していない』のは15.7%、『見守り体制はないが自然の見守りがなされている』のは22.1%、『見守り体制がないので作る必要がある』のは18.6%であった。

地区別では、『見守り体制があってうまく機能している』と答えたのが多いのは「瀬戸内（52.1%）」と「住用・大和・宇検（48.1%）」であり、『見守り体制がないので作る必要がある』と答えたのが多いのは「石垣・竹富（32.1%）」「笠利・龍郷（26.3%）」であり、『見守り体制はないが自然の見守りがなされている』と答えたのが多いのは「住用・大和・宇検（29.6%）」であった。

表14　集落の見守り体制の現状

地区	見守り体制があってうまく機能している	見守り体制はあるがうまく機能していない	見守り体制がないので作る必要がある	見守り体制はないが自然の見守りがなされている	その他	合計
笠利・龍郷	23.7%(9)	21.1%(8)	26.3%(10)	23.7%(9)	5.3%(2)	38
名瀬	35.5%(11)	16.1%(5)	16.1%(5)	25.8%(8)	6.5%(2)	31
住用・大和・宇検	48.1%(13)	11.1%(3)	11.1%(3)	29.6%(8)	0.0%(0)	27
瀬戸内	52.1%(25)	16.7%(8)	10.4%(5)	18.8%(9)	2.1%(1)	48
石垣・竹富	35.7%(10)	10.7%(3)	32.1%(9)	14.3%(4)	7.1%(2)	28
合計	39.5%(68)	15.7%(27)	18.6%(32)	22.1%(38)	4.1%(7)	172

6．集落の災害経験と防災体制

（1）大規模災害の経験の有無

集落が被害を受けた大規模災害の種類について答えてもらった。表15に示すように、全体では『豪雨』が72.9%で最も多く、次いで『台風』の61.5%、３番目が『山崩れ』の26.0%、４番目が『火事』の11.1%であった。豪雨や台風などの自然災害が多かった。地区別では、他地区と比べて「笠利・龍郷」が台風の被害が少ないこと、「石垣・竹富」で豪雨被害が少ないことが特徴的であった。

表15　集落が受けた大きな災害（複数回答）

地区	火事	台風	豪雨	地震	津波	高潮	山崩れ	その他	合計
笠利・龍郷	16.4%(4)	40.4%(10)	88.0%(22)	0.0%(0)	0.0%(0)	8.0%(2)	16.0%(4)	0.0%(0)	25
名瀬	28.6%(4)	64.3%(9)	57.1%(8)	0.0%(0)	7.1%(1)	0.0%(0)	21.4%(3)	0.0%(0)	14
住用・大和・宇検	16.7%(3)	66.7%(12)	83.3%(15)	0.0%(0)	0.0%(0)	16.7%(3)	33.3%(6)	5.6%(1)	18
瀬戸内	3.3%(1)	66.7%(20)	80.0%(24)	0.0%(0)	0.0%(0)	0.0%(0)	36.7%(11)	0.0%(0)	30
石垣・竹富	11.1%(1)	88.9%(8)	11.1%(1)	11.1%(1)	11.1%(1)	0.0%(0)	11.1%(1)	0.0%(0)	9
合計	11.1%(13)	61.5%(59)	72.9%(70)	1.0%(1)	2.1%(2)	5.2%(5)	26.0%(25)	1.0%(1)	96

（2）災害時の避難場所の評価

集落の災害時の避難場所について４段階で評価してもらった。表16に示すように、全体では『適切（32.2%）』と『どちらかといえば適切（41.2%）』を合わせた『適切』は73.4%、『どちらかといえば不適切（22.0%）』と『不適切（4.5%）』を合わせた『不適切』は26.5%であり、避難所の場所が適切であると答えた集落が多かった。

地区別の違いを見るために「適切＝４点」～「不適切＝１点」として得点化して比較した。各地区の平均値は、「笠利・龍郷」が3.08点（SD=.850）、「名瀬」が2.94点（SD=.851）、「住用・大和・宇検」が2.86点（SD=.803）、「瀬戸内」が2.85点（SD=.922）、「石垣・竹富」が3.41点（SD=.682）であった。一元配置の分散分析を実施したところ地区に有意差がみられた（F=2.447, df=4,176, p=.048）。下位検定の結果、「石垣・竹富」が「瀬戸内」よ

りも有意に高く（p<.05)、「住用・大和・宇検」よりも高い傾向がみられた（p<.10)。「石垣・竹富」の方が「瀬戸内」「住用・大和・宇検」よりも避難場所をより適切であると評価しているといえる。

表16 災害時の避難場所の評価

地区	適切	どちらかといえば適切	どちらかといえば不適切	不適切	合計
笠利・龍郷	36.8%(14)	36.8%(14)	23.7%(9)	2.6%(1)	38
名瀬	26.5%(9)	47.1%(16)	20.6%(7)	5.9%(2)	34
住用・大和・宇検	21.4%(6)	46.3%(13)	28.6%(8)	3.6%(1)	38
瀬戸内	27.1%(13)	39.6%(19)	25.0%(12)	8.3%(4)	48
石垣・竹富	51.7%(15)	37.9%(11)	10.3%(3)	0.0%(0)	29
合計	32.2%(57)	41.2%(73)	22.0%(39)	4.5%(8)	177

（3）災害発生の連絡・協力体制

集落で災害が発生した場合の連絡・協力体制について答えてもらった。表17に示すように、全体では連絡・協力体制が『うまく機能している』と答えたのは71.3%で、『整備する必要がある』と答えたのは28.7%であり、大方の集落ではうまく機能していた。地区別では「住用・大和・宇検」で『うまく機能している』と答えたのが多く（89.3%)、「笠利・龍郷」で『整備する必要がある』と答えたのが多かった（36.8%)。

表17 災害発生への連絡・協力体制

地区	うまく機能している	整備する必要がある	合計
笠利・龍郷	63.2%(24)	36.8%(14)	38
名瀬	67.7%(21)	32.3%(10)	31
住用・大和・宇検	89.3%(25)	10.7%(3)	28
瀬戸内	68.8%(33)	31.3%(15)	48
石垣・竹富	72.4%(21)	27.6%(8)	29
合計	71.3%(124)	28.7%(50)	174

7．回答者の属性

（1）回答者の性別

本調査は、集落・町内会・自治会の代表者に回答を依頼した。回答者の性別を表18に示す。全体では集落等の代表者は『男性』が90.4%を占め、ほとんどが男性であった。その傾向は奄美大島の北部で強く南部と「石垣・竹富」で弱かった。

表18 回答者の性別

地区	男性	女性	合計
笠利・龍郷	94.7%(36)	5.3%(2)	38
名瀬	91.2%(31)	8.8%(3)	34
住用・大和・宇検	89.3%(25)	10.7%(3)	28
瀬戸内	89.6%(43)	10.4%(5)	48
石垣・竹富	86.2%(25)	13.8%(4)	29
合計	90.4%(160)	9.6%(17)	177

（2）回答者の年齢

回答者の年齢を表19に示す。最も多いのは『60～69歳』の57.6%で、その次に多いのが『70～79歳』の18.1%、3番目に多いのが『50から59歳』の15.3%であった。集落等の代表者の人数は60歳代を頂点とする釣鐘型をしていた。

地区別では、「瀬戸内」が他の地区と比べて『70～79歳』が27.1%と多く、「石垣・竹富」では3.4%と少なかった。「石垣・竹富」では他の地区と比べて『39歳以下（17.2%)』と『40～49歳（10.3%)』が相対的に多

かった。

表19　回答者の年齢

地区	39歳以下	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	合計
笠利・龍郷	2.6%(1)	0.0%(0)	15.8%(6)	60.5%(23)	17.4%(7)	2.6%(1)	38
名瀬	2.9%(1)	2.9%(1)	11.8%(4)	64.7%(22)	17.6%(6)	0.0%(0)	34
住用・大和・宇検	0.0%(0)	3.6%(1)	10.7%(3)	67.9%(19)	17.9%(5)	0.0%(0)	38
瀬戸内	2.1%(1)	2.1%(1)	18.8%(9)	47.9%(23)	27.1%(13)	2.1%(1)	48
石垣・竹富	17.2%(5)	10.3%(3)	17.2%(5)	51.7%(15)	3.4%(1)	0.0%(0)	29
合計	4.5%(8)	3.4%(6)	15.3%(27)	57.6%(102)	18.1%(32)	1.1%(2)	177

（3）回答者の集落役職年数

集落の区長等になって通算で何年になるか答えてもらった。174人から回答があり、全体平均年数は5.1年（SD=4.93）であった。地区別では、最も長いのは「瀬戸内」の7.1年（SD=6.10）、２番目が「住用・大和・宇検」の5.8年（SD=5.86）、３番目が「名瀬」の4.0年（SD=2.75）、４番目が「石垣・竹富」の3.9年（SD=3.95）と「笠利・龍郷」の3.9年（SD=3.74）であった。一元配置の分散分析を実施したところ地区間で有意差がみられた（$F=3.727, df=4,173, p=.006$）。下位検定の結果、「瀬戸内」が「笠利・龍郷」「名瀬」「石垣・竹富」よりも役職年数が長かった（$p<.05$）。「住用・大和・宇検」は「瀬戸内」とその他の地区の中間にあったが有意差はなかった。「瀬戸内」の場合、役職年数が他の地区より長く、高齢の方が役職をされている。このことは少子高齢化が進んだ結果、後継者を見つけにくくなっていることを示していると考えられる。

8．集落の課題（自由記述）

集落の課題について自由に記述してもらったものを地区ごとに分けて整理した。

①「笠利・龍郷」

『少子高齢化が進み人口が減り、独居高齢者が増え、小学生がいない集落もある。小学校も廃校になっているところもある。見守り体制の整備や認知症予防対策が求められている。

働く場がないので若者が流出し、子どもが親を見ることが難しくなっている。若い世代が少ないうえに集落作業に参加しない。集落運営が難しくなり集落の維持も厳しくなっている。伝統文化の継承が難しくなっている。区長のなり手がなく、常会への出席が悪い。Ｉターン者のなかには集落活動に協力しない人もいる。全般的に集落行事に関心を示さない人もいて、集落をまとめていくのが難しくなっている。集落内の対立が足を引っ張ることもある。

人口流出や農業後継者不足で空き家・空地・耕作地放棄が増加している。国道、公民館、上下水道、光ファイバーなどのインフラ整備が求められている。また、保育園が遠くにあり不便である。』

中には、『新興住宅地で住みやすい集落作りを目指している。農地と集落を活性化するためにボランティアグループを立ち上げている。伝統芸能の継承に取り組んでいる。行事を隣の集落と共同で行っている。相互扶助活動や自主防災組織強化にも取り組んでいるところがある。』というところもある。

②「名瀬」

『人口減、独居高齢者の増加、若者がいない。そのため清掃や環境整備などの活動への参加者が減少している。若い世代が不在になる昼間の災害避難が課題である。人口も減り若い世代がいないので自治会・町内会の会長や役員の成り手がいない。町内会への関心がなく参加が少ない。自治会・町内会運営にも陰りが見え、存続も難しくなっている。集落の活動資金の確保も課題になってくる。豊年祭・八月踊りなどの伝統行事の後継者がいないので存続が難しくなっている。新旧住民間や異世代間の交流を図る必要がある。コミュニケーションの場を作って若い世帯の自治会加入を促進する必要がある。見守りネットワーク構築に取り組むことも必要である。歴史を観光に生かす方策を考え、地域の美化や教育に取り組む必要がある。また、若い世代の定住促進が必要である。

人口流出や農業後継者不足で空き家や耕作放棄地が増えているので有効活用を図る必要がある。公民館が狭い。集会所がないので建設を求めている。各種の施設が不足している。

防災無線が聞こえにくい。自主防災体制や協力体制を作る必要がある。道路の拡張、浸水地域の解消、狭小木造住宅地の整備などが求められている。』

中には、『しぼみかけた町内会の再建』を始めたところもある。

③「住用・大和・宇検」

『若い世代の職場が少ないので児童・生徒が減少し、学校がなくなるのではと不安である。実際に休校になったところもある。少子高齢化により集落行事の維持、集落の維持が困難になってきている。集落財政も厳しくなっている。独居高齢者が増えるので地域の支え合いを充実する必要がある。若い世代や転勤者の参加を促す必要がある。しかし、若い世代からは、協力するのが当たり前という雰囲気があり自分のことができないという不満も出ている。

豊年祭・八月踊り・島唄などの伝統文化の継承が困難になっている。Ｉターン者や他町村からの移転者との関わりを積極的に行い集落の伝統文化への理解を図る必要がある。

女性が働ける会社を誘致してもらいたい。若い世帯や独身者への住宅建設をしてもらいたい。納骨堂の建設や道路の整備をしてほしい。集落に日常の食料品を買える店がほしい。空き家対策をしてほしい。高台に避難場所を作ってほしい。自主防災組織があるが整備が必要である。災害時の見守り体制が機能するようにした方がいい。

合併してきめ細かな施策ができなくて住みにくくなった。地域からの議員が減り区長の負担が重くなったので区長への手当てが必要である。』

中には『山村留学制度のおかげで児童生徒が増えた。』『地域支え合い活動を通して地域を盛り上げていきたい。』『住宅整備やＩターンＵターンで人口が増え集落が活気づいている。』と回答した集落もある。

④「瀬戸内」

『働く場がないので若い世代が流出する。少子高齢化と若い世代の流出により子供がいなくなり小中学校が閉鎖になるところも出て、さらに人口が減少してきた。独居高齢者が増え認知症や健康低下の問題がある。集落作業などでの負担が増え地域の活動力が低下してきている。高齢者が多いので河川の美化作業もケガが心配である。寄付金集めも大変になってきている。公民館の維持が難しくなっている。また、若い世代の集落への協力が低い。集落の行事運営や文化継承が難しくなり集落の維持に懸念が出ている。集落の消滅もあるだろう。

空き家・空き地・耕作放棄地が増えて環境保全・安全・交通の障害になっている。ハブが多くなっている。集落内に店がないので日常の買い物が不便である。公民館の再築をしてほしい。

高齢者や弱者が多いので災害時の避難が難しい。特に若い世代が仕事で集落外に出ている平日の災害が不安である。海岸や川の近くにある集落なので津波対策が必要である。各人がライフジャケットを備えたら役に立つだろう。

ＵターンやＩターンが増えているので集落維持のために協力できるようにしたい。ＵターンやＩターンが来てほしい。しかし、せっかく来てくれても働く場がないので引き上げていくのが残念である。Ｉターンにだけ補助等があるが、Ｕターンにはなく不満である。

長所は相互扶助の気風が残っていることである。集落でサロンをして元気が出た方もいる。観光資源に恵まれているので開発が望まれる。』

中には、『地区内には、行政、学校、銀行、など、必要な機関が所在しており協力体制をつないでおります。他の地区とは、都会的状況にありますが、自助、公助はありますが共助はいまひとつ。』と回答したところもあるが、『当地区は町村合併による翳りがあり、陸の孤島にも譬えられるのではないかと思われる。』と回答した集落や『本島中心主義でおきざりにされている現状である。』という積年の課題を訴えた集落もある。

⑤「石垣・竹富」

『少子高齢化で人口が減ってきているところもあるが、移住者で増えているところもある。高齢者が増え敬老

会の運営側の人数が足りなくなっているところもある。行事への参加が低下してきている。移住者とのコミュニケーションをうまくとり集落行事に参加してもらうのが課題である。区長・自治会長のなり手が少ない。福祉ネットワーク推進会でサロン活動や異世代交流を増やす必要がある。

公民館の建て替えが課題である。若者が住む住居の確保が課題である。若い世代が帰って来ないので後継者がいない。隣近所の付き合いが希薄になっている。集落が狭くて新移住者が転入できないところもある。観光客が多いため災害時の対処を模索しているところもある。

その他、福祉や医療の充実、交通利便性の向上、自然・環境の保全、農業の活性化、特産品の育成、住宅・雇用・遊休地・農業の６次産業化の要望もある。』

中には、「この地区は移民（他島、○○など）が多く自治会（公民館）も50年程度です。ですからあまり形式ばった行事や伝統もないながらみんなで『わきあいあい』とやっています。すべてうまく行っています。何の問題もございません。」と回答した集落もある。

まとめにかえて

本研究は、鹿児島県奄美大島の奄美市、龍郷町、大和村、宇検村、瀬戸内町の５自治体と沖縄県八重山諸島の石垣市と竹富町の集落（町内会・自治会を含む）の代表者に郵送法によるアンケートを実施し、集落の団体と店の有無、行事の種類と伝統的祭りや芸能の存続の見通し、集落の維持の見通し、郷友会の有無と所在、集落の支え合いと見守り体制、集落の災害経験と防災体制、回答者の属性について答えてもらった。主な結果は以下のとおりであった。

１．集落の諸団体と店の有無

老人クラブは75%の集落にあった。「笠利・龍郷」のように100%に近い地区もあったが、「瀬戸内」のように半分ぐらいしかない地区もあった。老人が多くなっているはずなのに老人クラブが減少する傾向が見られた。青年団がある集落は奄美大島では軒並みに低いが「石垣・竹富」では7割を超えていた。婦人会がある集落は「笠利、龍郷」では100%、「瀬戸内」では６割であった。子ども会がある集落は「瀬戸内」が少なかった。子どものいない集落が多くなっているためであると考えられる。自主防災組織がある集落は８割を超え、地区の違いは見られなかった。

集落に店がない集落は全体で３割強あり、「住用・大和・宇検」においては５割を超えていた。高齢者にとっては生活が不便になりつつあった。

２．集落行事と伝統的祭りや芸能の存続の見通し

集落の行事で多いのは、『敬老会』『豊年祭』『新年会』であった。「名瀬」と「笠利・龍郷」では豊年祭の割合が低かった。伝統的祭りや芸能がある集落は全体では７割近くあった。地区別にみると「名瀬」では４割しかなかった。今後の伝統的祭りや芸能の存続については、７割の集落が今後も存続していけると答えていた。地区別にみると「瀬戸内」では４割と低かった。

３．集落の維持の見通し

「このまま集落を維持できる」と答えたのは７割強であった。地区別では「石垣･竹富」が９割近くと多かった。『維持が難しく消滅する』と答えたのは「名瀬」と「瀬戸内」が相対的に多かった。

４．郷友会の有無と所在

集落と交流のある郷友会がある集落は全体の４割であった。高齢化などで郷友会組織の世代継承がうまく進まなかったのが主な原因であろう。地区別では「笠利・龍郷」が７割近くあり、他の地区は20％～30％と低かった。

５．集落の支え合いと見守り体制

集落に支え合いの団体があるのは全体の７割近くあった。主な活動内容は『清掃活動』と『グラウンドゴルフ』であり、次いで『見守り活動』であった。「笠利・龍郷」「瀬戸内」「石垣・竹富」では『ゲートボール』も

多かった。「住用・大和・宇検」「名瀬」では『お茶飲み会』も多かった。また、見守り体制については4割が『見守り体制があってうまく機能している』と答えていた。その中で「瀬戸内」は5割強と高かった。地区別でみると『見守り体制がないので作る必要がある』が相対的に多いのは「笠利・龍郷」と「石垣・竹富」であった。

6．集落の災害経験と防災体制

集落が大きな被害を受けた災害で最も多いのは『豪雨』『台風』であった。地区別でみると「石垣･竹富」では『豪雨』の被害は少なかった。避難場所の評価については全体では7割強の集落が適切であると答えていた。地区別では「石垣・竹富」の方が「瀬戸内」「住用・大和・宇検」よりも避難場所がより適切であると評価していた。また、災害発生における連絡・協力体制については、7割の集落で『うまく機能している』と答えていた。

7．回答者の属性

回答者の性別は男性が9割を占めた。年齢では『60～69歳』が6割近くを占めた。地区別では「瀬戸内」で「70～79歳」の占める割合が相対的に多く、「石垣・竹富」ではほとんどいなかった。「石垣・竹富」では若い年代の者が他地区よりも多かった。役職の平均年数は5.1年であった。地区別では他の地区よりも「瀬戸内」の役職年数が長かった。年齢を合わせると「瀬戸内」では高齢の方が長く役職を続けていると考えられる。

8．集落の課題

集落の課題で共通しているのは、集落行事への参加が低下しているので今後の集落運営が難しくなってきていることであった。そのために若者や移住者とのコミュニケーションを図り集落運営に協力を得るようにすることがあげられていた。また、公民館の建設や道路の整備等のインフラ整備を求める声もあった。

奄美大島で共通しているのは、少子高齢化や若者の流出による人口減少と継承者不足により集落行事や伝統文化の維持が困難になり、集落の維持そのものに不安を感じているところであった。独居高齢者が増えていることも課題にあがっていた。弱者を含めて防災体制の整備も求められていた。空き家や耕作放棄地が増えて環境保全や安全面で支障が生じていた。

石垣と竹富では、人口減少をしているところでは奄美大島と共通した問題をあげていた。移住者による人口増のところもあり奄美大島が抱える人口減少による問題は少ないが、移住者の集落行事への参加などで共通した問題を抱えていた。

以上、鹿児島県奄美大島と沖縄県八重山諸島の集落の様子をアンケート調査で見てきた。琉球弧でくくられるように集落行事や伝統文化、郷友会などでは共通性が見られた。伝統的祭りは将来も存続していける状況ではあるが､「瀬戸内」のように存続が困難になっているところもあった。集落と交流のある郷友会はかつてほとんどの集落にあったが、かなり減少してきていた。集落単位では郷友会の維持が困難になってきていると思われる。

一方、産業が少ない奄美大島では人口減少が大きく集落行事や伝統文化を含めた集落運営に支障が出てきつつあった。学校閉鎖、空き家や放棄耕作地の増加などで社会環境および自然環境ともに悪化していた。一方、観光産業が盛んな八重山諸島では若い世代が移住してくるところが多く、奄美大島のような人口減少による問題は顕著ではなかった。しかし、移住者に集落運営へ参加してもらうことに課題を残していた。

注

1)　本研究において、鹿児島県奄美市、龍郷町、大和村、宇検村、瀬戸内町および沖縄県石垣市、竹富町の集落・町内会・自治会の代表者に調査票への回答・返送をしていただいた。また、調査実施において各自治体のご協力を得た。書面を借りて感謝申し上げる。

なお、本研究は、日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究（B）「琉球弧型互助形成にみる島嶼防災と地域再生実践モデルの開発評価に関する研究」（研究代表者：田畑洋一、課題番号：26285142）の成果の一部である。

文献

奄美市（2015）『奄美市の人口（住民登録月報）　住民記録年齢別人口集計表（平成27年11月2日現在）』　市民部市民課
(https://www.city.amami.lg.jp/shimin/shise/toke/jinko/index.html : 2015.12.1)

大山朝子・小窪輝吉・岩崎房子・田中安平・山下利恵子・田畑洋一・髙山 忠雄（2015）「島嶼集落における支え合い活動への取り組みと課題－鹿児島県の離島自治体における聞き取り調査をもとに－」『日本社会福祉学会第63回（2015年度）秋季大会久留米大学御井学舎　報告要旨集』PB-31

沖縄県（2015）『平成27年住民基本台帳年齢別人口』　企画部市町村課
(http://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/shichoson/2422.html : 2015.11.30)

鹿児島県（2015）『鹿児島県年齢別人口調査結果（平成26年10月1日現在）』　企画部統計課
(https://www.pref.kagoshima.jp/ac09/tokei/bunya/jinko/suikei/nenreibetu-26.html : 2015.11.30)

厚生労働省（2015）『地域包括ケアシステム』
(http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/ : 2015.12.1)

小窪輝吉・岩崎房子（2013）「大和村における地域支え合い活動の経過と現状　－大和村地域包括支援センター早川理恵氏へのインタビューを中心に－」　田畑洋一編　『島嶼地域の保健福祉と地域再生　－奄美・八重山の調査から－　（科学研究費補助金基盤研究（B）課題番号：23330190の研究成果報告書）』　鹿児島国際大学　Pp.80-96.

小窪輝吉・岩崎房子・田中安平・大山朝子・田畑洋一・髙山忠雄・玉木千賀子（2014）「奄美諸島瀬戸内町と八重山諸島竹富町の集落の現状と課題　－集落区長へのアンケート調査から－」『鹿児島国際大学福祉社会学部論集』　第32巻第3号　84-104.

須山聡（2003）「３章　奄美大島・名瀬の郷友会－組織の機能と空間的性格－」　平岡明利編『離島研究』海青社、41-57.

The present situations and problems of the village communities in Amami Oshima and the Yaeyama Islands

: The questionnaire survey of the chiefs of the village communities

Teruyoshi Kokubo, Fusako Iwasaki, Asako Oyama,
Rieko Yamashita, Yasuhira Tanaka, Yoichi Tabata, Tadao Takayama

Abstract

The purpose of this study was to clarify the actual conditions and problems of the village communities in the islands of the Ryukyu arc. The questionnaire survey was conducted on 286 chiefs of the village communities and the neighborhood associations in Amami Oshima and the Yaeyama islands. The number of respondents was 177, and the response rate was 61.9%. The contents of the questions were concerning the associations in the village community, the present situations and the prospects for the maintenance of the traditional events, "Goyukai" (immigrant's voluntary association), the situations of the reciprocal help activities, the disaster-related measures, the problems of the community, and the personal attributes of the respondents.

Amami Oshima and the Yaeyama islands had many common features as to typhoon damage, traditional events, the present state of "Goyukai", and mutual support activities. On the other hand, since Amami Oshima was less active in the tourism industry than the Yaeyama islands, many village communities in Amami Oshima had some problems due to a decrease in population. They were also pessimistic about prospects for the maintenance of the traditional events and the community itself.

Key Words: Ryukyu Arc, village community, Goyukai (immigrant's voluntary association), mutual support activity, disaster-related measures